

人口減少対策等調査特別委員会 会議記録

- 1 期 日 令和2年9月18日（金）
午前9時26分 開会
午前11時6分 閉会
- 2 場 所 第3委員会室
- 3 出席委員 委員長 嶋崎 宏之
副委員長 足田 仁司
委員 浅田 徹、清水 寛、
土生田仁志、福田 嗣久、
村岡 峰男
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 （別紙のとおり）
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 主幹兼総務係長 小林 昌弘
- 8 会議に付した事件 （別紙のとおり）

人口減少対策等調査特別委員長 嶋崎 宏之

人口減少対策等調査特別委員会 次第

日 時：2020年9月18日(金)9:30～

場 所：第3委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

(1) 委員会所管事項について（現況と今後の計画）

【政策調整部】 政策調整課、公共施設マネジメント推進室

【総 務 部】 ワークイノベーション推進室

【健康福祉部】 健康増進課

【環境経済部】 環境経済課

(2) 委員会の運営方針について

委員会重点調査事項 <別紙1>

(3) 委員会調査中間報告書（案）について<別紙2>

4 その他

5 閉 会

人口減少対策等調査特別委員会名簿

【委員】

2020年4月1日現在

職名	氏名
委員長	嶋崎 宏之
副委員長	足田 仁司
委員	浅田 徹
委員	清水 寛
委員	土生田 仁志
委員	福田 嗣久
委員	村岡 峰男

7名

【当局】

職名	氏名	職名	氏名
政策調整部長	塚本 繁樹	政策調整課長	井上 靖彦
総務部長	成田 寿道		
総務部次長兼ワークイノベーション推進室長	上田 篤	ワークイノベーション推進室参事	岸本 京子
健康福祉部長	久保川 伸幸	健康増進課長	宮本 和幸
政策調整部参事	正木 一郎		
政策調整部次長兼公共施設マネジメント推進室長	土生田 哉		
環境経済部長	坂本 成彦	環境経済課長	午菴 晴喜

11名

【議会事務局】

職名	氏名
主幹兼総務係長	小林 昌弘

19名

人口減少対策等調査特別委員会重点調査事項

2020. 6. 22

- 1 移住・定住促進に関する事項
- 2 結婚支援、多子出産応援、子育て支援に関する事項
- 3 産業振興等、地域活性化対策に関する事項
- 4 人口減少等にかかる諸課題に関する事項
- 5 公共施設の再編に関する事項

午前9時26分開会

○委員長（嶋崎 宏之） おはようございます。定刻より若干早いですが、皆さんおそろいですので、ただいまから人口減少対策等調査特別委員会を開会いたします。

改めまして、おはようございます。涼しくなってきたと思ってましたけども、ちょっと昨夜来なんか以前の蒸し暑さがぶり返ってまいりまして、気温のほうも30度はちょっと下回るようですけども、やっぱり湿度がかなり高いような状況になっていますけれども、しっかりとインフルエンザ、コロナには皆さん十分注意をして過ごしていただきますように、よろしく申し上げます。

この特別委員会も今回がこの体制での最終の委員会となります。今年はコロナで、とにかく管内視察も管外視察も全て中止ということでできなかったんで、当局の皆さんにはかなり重圧になったことだと思いますけれども、委員会、本当にご苦労さまでした。ありがとうございます。今日はその辺の集大成というところでしっかりと、今まで言えなかったこともしっかりと言っていたきたいというふうに思っておりますし。

それからちょっと、そうですね、僕、これビデオで見たんだけど、8月3日にNHKの「おはよう関西」で、15分間で、豊岡市の移住定住の記事が、記事じゃないな、内容が出たん、放送が出ておまして、あれをちょっとしっかりビデオに撮って、あと復習しながら見せていただきました。非常に相談件数が今年は増えているということで、しかも何か20代前半の男性の豊岡市出身で大阪在住の方の話と、それから東京にいらっしゃる方のインタビューなんか、豊岡に移住したいという希望を聞いて心強く感じております。

我々の委員会も総括みたいな格好になりますけれども、そういった明るいニュースがあったというところで、その辺のところ、また関連の部署がありましたら概要でも結構ですので、話していただければというふうに思っております。

それでは、長々とおしゃべりしましたがけれども、

着座して進めさせていただきたいと思います。

協議事項に入ります前に連絡をさせていただきます。

委員会中の発言につきましては、必ず委員長の指名を受けてから、マイクを使用し、所属と氏名を名のってから発言していただきますように、よろしくお願いを申し上げます。

それでは、3番の協議事項に入ります。

まず、委員会所管事項について、各部署から現況と今後の計画について一括して説明していただき、全ての部署の説明が終了した後、質疑という形で進めたいと思います。

それでは、まず、政策調整部政策調整課から順に説明をお願いします。

政策調整部政策調整課、井上課長、よろしく申し上げます。

○政策調整課長（井上 靖彦） 私のほうからは、第1期の地方創生総合戦略の総括についてご説明させていただきます。

資料は1、2、3と、ホチキス留めのものを3つご用意させていただいております。

コロナの影響で、地方創生の戦略会議がちょっと延びておりましたが、7月22日に行うことができました。その中で、資料1に基づきまして、副座長であります神戸外大の中嶋先生から報告を行っていただいております。

内容につきまして、1ページ目の下ですが、大きく3つございました。

1つ目ですが、今年の国勢調査の結果が出ないと分かりませんが、住基データ等の人口統計で確認できる明確な成果は認められなかったということが1点目です。ただ、これにつきましては、竹野や但東は過去100年間で一度も人口が増えておらず、市全体でもずっと右肩下がりに人口が減少していると、このような状況の中で、この第1期の5年間ですぐさま人口統計で確認できるような成果が出ないということは想定済みだということでございます。2つ目の点に書いてありますが、むしろ過度に短期的な成果を狙って、偶然性や外部要因

に左右されやすい小規模自治体の統計結果に一喜一憂し、腰を据えた持続的なまちづくりがぶれる、途絶えるのはよくないというようなご指摘もいただいております。

2つ目でございますが、持続的、効果的な創生戦略の基礎を築いたことが、あるべき重要な成果だったということでございます。より注視すべき戦略分野が特定されて、その下で魅力あるプロジェクトが始動した、市長のほうも4つのエンジンというようなことも言っていますが、こういったことが成果であるということでございます。

3つ目でございます。第2期以降に向けて、持続的、効果的施策、プロジェクトを着実に実施することが大事ということでございます。常に戦略目的、上位目的に照らして、量的、質的改善の両面から工夫を重ね、人口動態効果につなげることにこだわるといことで、量的な改善では、若者、特に女性の転出の超過抑制、これが第2期のキーになるだろうということもおっしゃっておられました。それから、質的な改善では、既にジェンダーギャップの解消等取り組んでおりますが、特に多様性を受け入れ、活力に変えるまちを進めていくことが大事ということでございます。

次のページをご覧ください。分析としまして、豊岡市の創生戦略と人口動態の注目点ということで上げております。上のところ、右肩にページ数、3と書いてあるところですが、人口増減の要因として、出生、死亡、転入、転出とあるうち、豊岡市では、赤囲みがしてあります、特に出生に関しては女性人口の減少、転入については外国人が増えている、転出については日本人の女性が多く出ていっているという、こういった特徴があるということでございます。

その下のグラフ、4ページになりますが、人口減に占める自然減の割合の増加ということでもあります。5年平均でグラフをつくっておりますが、2005年から9年、左のところ、緑が社会増減でございます、転入、転出。オレンジが自然増減で出生、死亡。2005年から9年の5年間では、社会増減

が65%を占めていたと。それが46%になり、2015年から19年、これ第1期の地方創生の期間中ですが、逆転をしております。社会増減のほうは40%で、6割が自然増減によるものだということでございます。

次の、右の5ページでございますが、じゃあ、その出生数の急減と女性の人口の急減ということの説明でございます。グラフ中、横軸が年でございます。2015年までが国調の数値を使っておりますので、5年刻みになっております。2016から19については1年刻みで、住基の数字を使っております。棒グラフが出生数になりまして、1985年、一番左ですと1、166人が生まれております。ずっと見ますと、2015年が609人、その5年後になる2019年が507人と、もうこの5年間で100人、子供の生まれる数が減っているということでございます。これがかなり非常に急激に減っているというところで、その要因を見てみますと3つ分かれておりまして、一番上のオレンジのグラフですが、これが有配偶出生率でございます。これが出生行動で、市内で結婚している女性がどれくらい平均的に子供を産んでいるかというグラフです。これについては、上がったたり、下がったりはしていますが、安定的に推移をしているということでございます。青の折れ線グラフが結婚行動でございます。これは結婚する数が徐々に減少していっている。赤のグラフが、これが女性の人口です。ここが急激に減少しているということで、今、女性の人口が減っているということが、15歳から49歳でございますが、最も影響を受けているというような分析でございます。

その下、6ページですが、では、転出入の地理的特徴、豊岡の転入者はどこからやってくるのかということ。上の棒グラフが日本人の男性、下が日本人の女性、3番目が日本人男性の転入、下が日本人女性の転入となっております。特に女性の転入については、但馬内から移ってくる割合が男性よりも多いということが、特徴的に見られます。あと、外国人の転入が増えているということも特徴的で

ございます。

次の7ページをご覧ください。人口動態で存在感を増す外国人住民と書いております。定住人口として、今、外国人住民約800人、ちょっとこのコロナの関係で今は減ってはおりますが、人口の約1%を占めております。その中でも15歳から39歳の若年人口に絞ると、約3%と比率は上がっております。さらに移動人口で見ますと全転入者の22%が外国人、さらに若年人口でいきますと28%、3割弱が外国人ということで、非常にこの外国人の住民を、いかにコミュニティの一員として受け入れるかっていうことが大きな課題だということの分析をいただいております。

総括としては以上でございます。

続きまして、資料の2、資料の3についてでございますが、まず資料の3をご覧くださいければと思います。

これが第1期の地方創生総合戦略の戦略体系図でございます。上位目的、豊岡に暮らす価値を認め、豊岡で暮らすことに自信と誇りを持って住む人が増えている。戦略目的Aとして、暮らすなら豊岡と考え、定住する若者が増えている。この指標としまして、人口の社会増減の緩和を掲げております。さらに手段Aのところでは2桁手段というものの、またその下にいろいろな施策を入れておりますが、それぞれに実績値、一体幾ら、例えば社会増減の緩和だと人数がどうなったかということ、右から2つ目の欄、実績値で表しております。さらには目標値というものも当初定めておりますので、その差を第1期の総括として上げております。

これを、ちょっと数字で分かりにくいので、グラフにしたものが資料2になっておりますので、資料2をご覧くださいければと思います。

1ページの①のところですが、これが戦略目的Aの実績といたしますか、全体の実績値になります。2014年に313人の転入、転出の差でございますが、313人、これを基準として、目標値をマイナス281人としております。これは毎年減る数を313人に対して32人ずつ減らしていこうという

ことでスタートしました。2016年、17年にはこの目標値を上回るというか、クリアしまして、社会減がマイナス172ということで成果を上げてきたわけでございますが、18年、19年には逆に大きく落ち込んだということでございます。これにつきましては、なかなか詳細な要因は分かりませんが、多分でございますが、かなり景気がよくなったということで、若い人が都会に出て働くということが影響しているのではないかとというようなことでございます。

続きまして、飛んでいただきまして、6ページをご覧ください。6ページの4つのグラフのうち、(23)という出生数のところでございます。これがB戦略の、多くの子供でにぎやかな家庭を持つ若者が増えているという指標の一つ、出生数でございます。これにつきましては、目標値を650人以上としておりましたが、先ほども説明しましたように、2019年には507人ということで、さらに5年間で100人弱減っているというようなところで、なかなか成果が出なかったというところでございます。

もう一つ、最後、8ページをご覧ください。8ページの一番最後に、33というところに合計特殊出生率を書いております。これもB戦略の指標の一つでございますが、今年の7月末にやっと国のほうから公表されました合計特殊出生率目標値を1.92としておりまして、2008から2012年の平均値、これを今、豊岡市の第1期のときに設定した数字が1.82でございます。直近の2013年から2017年の平均値が、一番下に書いています1.74ということで、目標値からは下がってしまったという結果でございます。ただ、これにつきましても、全国では1.43、県でも1.47という数値でございますので、ほかから見れば高い数値かなというふうに思っております。

それぞれにつきましても、またご清覧いただければというふうに思いますが、戦略会議の中ではこのようなことを説明しまして、委員さんのほうからは、おおむね数値としては達成できたものやできてないものがございますが、おおむね評価していただ

たのかなというふうに思っています。

教育の分野であったら、やはり子供に対してふるさと学習をしていただけることで、親としても帰ってこいというようなことが言いやすくなるとか、あるいは突出した取組の中でロールモデルができてきた、それをもっと発信してほしいというようなこと、また、ジェンダーギャップの取組というのは非常にいいことだというようなことも意見としていただいております。また最近では、このコロナの影響でZoomを活用した、もっと地方創生ができないかというような意見もいただいているところがございます。

以上で説明を終わらせていただきます。

○委員長（嶋崎 宏之） 以上で政策調整課、説明が終わりました。

次に、政策調整部公共施設マネジメント推進室、お願いします。

土生田室長、よろしく申し上げます。

○公共施設マネジメント推進室長（土生田 哉） 資料のほう、1枚物お配りをしております。現在の進捗状況と今後の計画でございます。

まず1つ目に、公共施設等総合管理計画の改定業務でございます。これは、本年度と来年度をかけて行うものでございます。既にプロポーザルを行い、7月10日に契約をして、5,227万2,000円で契約をいたしております。

業務概要でございます。まず、公共施設等適正管理推進事業債の必要条件であります個別施設計画、これにつきましては、既にコミュニティセンターであるとか学校等については出来上がっておりますが、それ以外の314施設について策定する方針。

そのうちの特に人が多数お集まりになる、例えば健康福祉センターであるとか庁舎であるとか、そういう常時、多数の方が出入りする施設については、劣化診断調査を行うということで、現地調査のほう開始しております。115施設を対象に、9月16日から10月30日までかけて、それぞれの施設、事前に施設管理者のアンケート調査、気になる点がないかどうかなどもお伺いした上で現地調査を行

っております。

それから受託事業者からの提案がございました件でございます。日常点検の研修ということで、予防保全に向けて、職員研修もしくは施設管理者の研修を10月9日、竹野庁舎と日高の健康福祉センターそれぞれで現地調査、どういう点を目視で点検したらいいのかというふうなことを研修する予定としております。

それから、受託事業者のほうで独自提案がございました。今後、施設管理を行う上で個別に、例えば電気であるとか各種保守点検であるとかというのを、個別発注を現在しております。ただ、こういうものもやっても、また、小修繕などもそれぞれが個別で発注していると、こういうものを、包括的に管理業務を委託できないだろうかということの事前の調査をしてはどうだろうかということで、これは来年度の業務予定といたしております。今回の公共施設等総合管理計画の改定業務に併せまして、その施設を一度、現状も見に行く中でそういうことを検討してはどうかということで、可能性調査及びサウンディングまでを来年度の業務として予定をいたしております。

それから、地域デザイン懇談会の運営支援でございます。こちらにつきましては、コロナの緊急事態宣言もございましたので、一旦中断をいたしておりましたが、8月7日にプロポーザル公告を再開をいたしております。今後、10月中旬には契約候補者を決定し、10月下旬に契約締結後、順次、各地域での懇談会を開催できるよう現在、準備を進めているところでございます。以上でございます。

○委員長（嶋崎 宏之） ありがとうございます。

それでは、続いて、総務部ワークイノベーション推進室、お願いします。

上田室長。

○ワークイノベーション推進室長（上田 篤） ワークイノベーション推進室から4件ご報告いたします。キャリアデザインについては、後ほど岸本参事のほうからご説明いたします。

ジェンダーギャップ解消戦略の策定でございま

す。こちらは、ここ2年ほど、職場を切り口としたまちのジェンダーギャップ解消に取り組んできたんですが、今年度は家庭、地域等を含めたまち全体のジェンダーギャップの解消に向けた戦略を策定することといたしております。

今後、戦略会議を開催して、若い世代の意見ですとか経営者の先進事例とかもこの2月からずっと行ってまいりましたので、そういうものを反映させながら、市民主体で地域に根差した未来志向の戦略案を検討していきたいと思っております。

(1)です。今後の策定スケジュールです。戦略会議でございますが、これは第1回をこの連休明け、9月23日に開催して、第3回、12月16日まで3回予定しております。その後、戦略のまとめというのを年明けの1月下旬ぐらいまでにして、パブリックコメント、戦略策定については来年の3月下旬を予定しております。コロナの影響で、当初9月下旬だったものが3月下旬とちょっと延期されております。

戦略会議の参加者、(2)です。委員は10名です。学識経験者を含めまして、市内の経営者ですとか多世代、多様な立場の市民の方にご参加いただきます。委員名簿については別紙につけておりますので、後ほどご覧いただければと思います。アドバイザーには、去年の6月からジェンダー平等推進アドバイザーに就任いただいております関学客員教授の大崎さん、それとオブザーバーには内閣府地域活性化伝道師の田中さん。(「最後のページ」「ああ、最後か」と呼ぶ者あり)策定支援委託業者のほうは(株)クレアンということでございます。

第1回の戦略会議の中では、ジェンダーギャップを解消された場合のシナリオ、それと、逆に解消されなかった場合のシナリオを検討して、この戦略の目指す姿を明確化させていくというその作業をやっていきます。従来の、どういったらいいんですか、戦略をつくる場合に、よく当局のほうでつくった案をいろいろとご意見をいただいて、修正かけていくっていう方法じゃなくて、実際にワークショップとかも委員の皆さんに体験をしていただいて、どんど

んどんどん何かいろんな気づきがあったりとか、いろんな意見を出していただくという、そういう方法を今回は取ります。

第2回では、戦略素案とか体系図を基に検討して、具体的な手段とか事業等についてはまた意見をどんどん出していただくと。

第3回については、戦略案と体系図とKPIの設定についてまた意見をいただいて、固めていくという、そういう予定をいたしております。

その下の四角ですが、ジェンダーギャップ解消の取組、豊岡市のこの取組をYahoo!ニュースで7月に2回、ジャーナリストの治部れんげさんが取材された記事が一応発信されまして、これは1か月で大体10万人の方がご覧いただいて、これを受けて、いろんな問合せが全国から来ているという、そういう状況です。

2番がワークイノベーション事業の推進、これは事業所向けです。これにつきましては、このコロナの影響もございましたので、対象を絞り込んで、市内事業者の管理職と女性従業員向け、この2つに絞り込んで、9月の25日から10月にかけて開催することといたしております。

次のページでございます。(1)に各種セミナーの開催の概要を書いておりますが、管理職向けについては、これ2回シリーズでワークショップと講義の、ワークショップ、主に演劇的手法を使ったワークショップと、無意識のうちの偏見、決めつけなどに気づいていただく、そういう講義、ワークショップを予定しております。半日の2回で定員20名、予定です。

女性のためのキャリア支援プログラムのほうは3回シリーズで、こちらは、今の演劇ワークショップ、プラスと無意識の偏見、セミナーに加えて、最後、自分のありたい姿というのを参加者の女性から発表していただくという、そういう3回コースを予定いたしております。

それと、(2)で事業所の従業員意識調査の実施、これは去年も実施しまして、去年は市内の6事業所に意識調査を実施していただいたんですけど、これ

につきましても今年度、市内事業者のご希望される事業所を対象に、働きやすさですとか働きがいについての意識調査を実施して、当面、直面する、そういう課題っていうのを浮き彫りにした上で、いろんな打ち手を専門家からご提案いただくという、そういう取組を今年度も実施いたします。これは9月から11月にかけて実施いたします。

(3)で、表彰制度の実施ということでございまして、これは去年からずっと準備を進めてきたんですけど、市内の先進事業者の可視化と他の事業者への波及を進めるために、この10月から表彰制度の募集開始を始めていきたいというふうに考えております。応募された事業所に対して1次審査、これは先ほどの従業員意識調査の結果を利用します。それと、2次審査には専門家による経営者のヒアリングを実施した上で、高い水準に達しておられる事業所に対しては表彰を予定いたしております。

次、飛びまして、5ページ、4の子育て中の女性の就労促進につきましてご説明します。これはプチ勤務ということで、子育て中の女性の短時間、少日数の就労のマッチングという取組をやってきましたんですけど、今年度につきましては、このコロナ禍で、特に生活困窮につながりやすいシングルマザーにターゲットを絞りまして、社会福祉課が実施してまます事業と連携して、あとハローワークさんとかも連携して今、取り組んでいるところでございます。

その下の囲みの中にございますように、この7月にはシングルマザーへのヒアリングとか実態調査を社会福祉課サイドで実施して、この8月から9月にかけて、市内事業所のプチ勤務に参加された事業者に対して、このプロジェクトに対しての参加打診をしてきました。これを受けて、10月から11月にかけて3回シリーズのステップアップセミナー、このマインドセットを目的に実施して、それを受けて事業所の個別相談会の開催、それと、今回トライアルということで、ITスキル装着支援セミナーについて来年1月から3月まで、アドバイザー等の協力もいただきながら実施していきたいというふうに考えてます。

続きまして、キャリアデザインのほう、岸本参事のほうからご説明します。

○ワークイノベーション推進室参事(岸本 京子) それでは、3番目に記載をしております、戻っていただいてというところで、豊岡市役所キャリアデザイン事業の推進について説明をさせていただきます。

現在、2018年1月に策定をしましたアクションプランに掲げております、全ての職員の能力を發揮し、市民の暮らしを支えているという状態を達成するために、引き続き……(「何ページ、ちょっと待ってよ」「ちょっと待って」と呼ぶ者あり)3ページです。

○委員長(嶋崎 宏之) 3ページ、下。よろしくお願ひします。

○ワークイノベーション推進室参事(岸本 京子) すみません。2018年1月に策定をいたしましたアクションプランに掲げておりますが、全ての職員が能力を發揮し、市民の暮らしを支えているという状況を達成するために、引き続き働きやすさ、働きがい、そしてジェンダーギャップの解消を柱に、長期的視点に立ち、研修等の充実に取り組んでおります。

2つ目には、2019年度実施をいたしました研修、それから、職員の意識調査で新たに確認された当面の課題の改善に向けた取組を進めています。

3つ目ですが、研修につきましては、2019年の研修を基に、多くの職員一斉に行ったんですけども、少しそこは整理をいたしまして、階層ごとに身につけておくべきスキルの研修を柱として計画をいたしまして、課題発見力、課題解決力のスキルアップに重点を置いて研修を実施しております。あわせて、2020年度、今年度ですが、管理職の、特に管理職のマネジメント能力育成にも注力をするという方針で取り組んでおります。

ここで記載をしておりますが、キャリアサポートシートを活用いたしましたキャリアサポート面談、全職員を対象としたものですが、春とそれから年度末の2回、面談を実施をしているということで、そこで得られる情報もたくさんありますので、事業推進に活用してまいりたいと思います。

研修のほうなんですけれども、8種類、11こま、研修を予定をしております、もう既に実施したものこれからの実施のものもごさいます。

最終的に11月、12月にかけて、今年度も職員の意識調査を実施いたします。

3ページの一番最下段にあります4月8日という日程がございますが、OJTの指導者研修を今年度初めて実施いたしました。新任職員の育成担当として必要な指導能力を高めるという意味合いを持ちまして、研修実施をいたしております、今年採用された職員に対して、各部長からそれぞれ担当の職員を決めまして、その職員が新任の教育に当たっているということです。ちょうどその一つの目安となります半年が経過しつつありますので、今アンケートを聴取をしているところでして、中には、全員返ってきておりませんが、同年代のサポートが心強かったとか考え方、成長を促す指導をしてもらえた、それから心構えを持つことができた、それからモチベーションを何とかそのおかげで保っているというふうな感想をもらっています。

4ページのほうには、ずっと掲げておりますが、若手を対象としたキャリア形成研修、そしてファシリテーション、調整能力をつけるためのファシリテーション研修、そしてリーダーシップ研修、ここ主任級なんですけれども、特に課題対決をする、課題発見をするというふうなところで頑張っていたいただいています。

9月、ちょうど今月、後半の研修に入りますが、28日からスタートいたします管理職のマネジメント研修です。コーチング研修、特に職員との面談について能力を上げてもらおうということで、このコーチング研修を課長級と課長補佐級と2回に分けて実施いたします。そして、演劇ワークショップをここでも取り入れまして、特に無意識の偏見に気がついてもらうということ、それがリーダーシップを発揮することにつながりますので、その部分も同じように、管理職のうちの課長級と課長補佐級、それぞれ分かれて、最終的には無意識の偏見を知る、気づくということで、演劇プラス講義形式の研修を

受けてもらいまして、一通り管理職の研修を、3研修を終えるということです。

それから10月、もう一つありまして、会計事務・文書法制事務の初任者研修を、今年初めて実は別枠で実施をさせていただくことにしました。一定の業務を経験した後、自分が悩んでいること、それから間違っただま業務を遂行してしまってるようなことも多々ありますので、その洗い出しをして、また改めて知識を身につけていただくというようなことしております。

11月に、先ほど申し上げました意識調査で結果を出していくということになります。以上です。

○委員長（嶋崎 宏之） 続きまして、健康福祉部、健康増進課、お願いします。

宮本課長。

○健康増進課長（宮本 和幸） それでは、2020年度結婚支援・多子出産応援事業についてというものをお願いします。

まず、これまでの実績です。1、結婚支援、アの事業別成婚実績になります。成婚数として、婚活イベントのは一とピーでは4組、それからお見合い制度、縁むすびさんでは3組、それから社協のほうでは2組、それから交流会では団体補助で1組ということで、合計10組の成婚が今までに報告がありました。これは、過去に行った事業も含んで今年度に報告というものですので、過去に行った事業の実が結んだというようなことで考えております。

次に、イとして、豊岡市婚活応援プロジェクトは一とピー、婚活イベントになりますが、(イ)です。婚活イベントの開催状況として毎月1回はと思ってたんですが、今の状況ですので、7月までは中止をしました。8月に今年度初めて行いまして、カップル数としては6組のカップルが誕生しております。

次に、ウとして、ボランティア仲人養成事業、縁むすびさんです。その(イ)縁むすびさん登録数ですが、男性が44、女性が96の合計140、登録をいただいています。

(ウ)の独身の登録数ですが、男性は173、女

性が131、合計304人の登録があります。これのうち、事務局でも扱って登録してる方があります。その内訳として男性が45、女性が54で、合計で99人ということになります。

次に、(カ)の恋するお見合いです。これは6月に開催を予定していましたが、中止をしまして、今度は10月に実施をしようとしています。

それから(キ)のおんとおふということで、オンラインとか、あと交換日記の分で企画をしている分です。登録者としては男性10名、女性12名の計22名、相手を紹介したりしてる分が延べ27件ありまして、実際お見合いに至ったのが延べ14件で、そのうち、交際発展が8件で、交際中が7件というふうになっております。

次のページをお願いします。(ク)の活動実績です。組合せの相談を281件、プロフィール紹介が222件。実際お見合いが92件で、交際成立カップルが56組、8月末現在は43組の交際がありまして、そのうち、成婚が3組というふうになっております。

次に、飛ばしまして、オですね、出会いサポート企業推進事業、これについては、コロナの影響もありまして開催はしておりません。

次のカの出会い機会創出補助事業についても、これは申請がないというような状況です。

2の多子出産応援です。アのNPO法人ママの働き方応援隊「赤ちゃん先生プログラム」等派遣事業、これについては、NPO法人さんのほうと協議しまして、やはり今年度はちょっと開催できないかなということで、今年度は中止といたしております。

イのママによる子育て世代向けイベントの開催事業の補助金ですが、今の現在では申請はないという状況です。

次に、今後の活動予定ですが、1として、豊岡市婚活応援プロジェクトは一とピー、これについては感染防止対策を行いまして、今後、毎月開催を予定しております。8月以降、毎月開催したいなと考えております。

次に、2のボランティア仲人養成事業、縁むすび

さんですが、これについて、アで、11月28日に縁むすびの講演会を開催します。今回、縁むすびさんのみを対象に研修会として実施ということで、今までであれば広く周知して、これで縁むすびさんのほうの募集も行おうかなと思ってたんですけど、やはりコロナの関係があるんで、今回は今現在の縁むすびさんのみということで対象に開こうと思っております。

イとして、恋するお見合いですが、イの(ア)です。10月に開催を予定をしております。

全般的にですが、今回、新型コロナウイルスの影響のため、は一とピーとかの集団でするような事業というのはなかなか実施が難しかったので、今の少人数でできる縁むすびさんのほうの事業をこつこつとやっていると状況です。

説明は以上です。

○委員長(嶋崎 宏之) ありがとうございます。

それでは、続いて、環境経済部環境経済課、お願いします。

午庵課長。

○環境経済課長(午菴 晴喜) それでは、資料1ページ、環境経済課の分で、主な所管事業の進捗状況と今後の計画についてというふうに題をつけさせていただきます。

1つ目といたしましては、移住定住促進ということでございます。(1)です。移住等相談件数ということで、冒頭の委員長の話題の中にも言っていただきましたけども、相談件数が増えていきますということで、今年度4月から8月までの相談件数が258件ということで、対前年比は増えてはおるんですけど、7月までよりもその伸び方は少し落ち着いてきたのかなと。7月までは対前年で4.2倍ありましたが、8月まで合計をすると約2.7倍ということで、多いんではありますけど、少し、今申しあげましたように落ち着いたとか、元に戻ってきたとか、ちょっとそこら辺はまだ今後、見極めていきたいなというふうに考えております。

中段の、うちオンラインっていうのは、こういう時期でございますので、直接の相談だけではなくて、

オンラインでというふうなことをご覧いただきたいと思います。

下段の表になります。年齢別、性別の内訳でございませう。こちらも年代的には20代、30代、40代、年代別割合というふうに記載をさせていただいておりますけれども、そちらの合計が61%ということで、半分以上を占めております。若い方のほうに、興味を持っていただける方が多いのかなと。ただ、移住相談につきましては、すぐに移住をしたいということではなくて、例えば地域おこし協力隊というような制度がありますが、それ何ですかみたいなのを含めての相談件数ということになりますので、全体的の方がすぐに移住というふうな相談ではないということはお承知おきいただければと思います。性別のほうでございませうけれども、男性と女性ということで、相談を受けたときの記録に性別を必ずお聞きできてないという部分もございませうので、ちょっと不明という部分がありますけれども、総体的に見て同じぐらいではあるけれども、若干、女性のほうが多い傾向があるのかなというふうな分析をしております。

1ページめくっていただきまして、2ページ、ウ、都道府県別の内訳でございませう。ご覧いただきましたように、全県、全県といひませうか、広くから相談は受けさせていただいておりますが、率的に多いのが大阪、兵庫県という辺りの関西圏、それと関東では東京都から率にいたしまして15.5%ということで、東京、大阪、兵庫というふうなところが多い地域となっております。

3ページございませう。エの方法別ってということで、どんな方法で問合せがあったかという、一番最初の段階となりますけれども、やっぱり電話とかメールとかっていう部分が多うございませう、SMOUTというのが3段目にございませうけれども、民間のサイトでございませう、昨年度の8月から豊岡市も活用させていただいておりますが、移住をしたいという希望を持っていらっしゃる方が登録をされるサイトで、登録をされたところに対して、またこちらが移住してほしいという、自治体等から情報発信をし、

その後マッチングし、やり取りをしていくというふうなサイトでございませう、もう入り口から、普通の方よりは少し移住に強い思いを持っていらっしゃる方というところから入ってまいりますので、その活用部分が大きいなというふうな思ひませう。あとは5段ほど下に、暮らしのパーラーというのがあります、1件しかないんですけども、これも昨年度の10月から公設市場内に設置をしております。移住された方の前後の相談等も含めて支えていくというふうなことでものを設けておりますが、こちらは1といひませうのは、直接は一番最初にこちらに行かれたということで1ではございませうけれども、当然こちらのほうも電話の後からつながっていくというふうな、横断的なつながりがあるということでご覧いただきたいというふうな思ひませう。

次、(2)番の移住実績でございませう。2020年度は8月末まででございませうが、合計で38人で22組の方がお越しいたひておるといひませう、市の窓口を経由しての移住ということでございませう。

下段のイです。定住促進補助金の実績ということで、移住をしていただくに当たりまして、市で準備をしております補助金の活用状況となります。2020年度8月までの欄をご覧いただけたらと思ひませうが、一番上の移住促進支援補助金については、事前の段階、こちらにお越しいたひて、状況を見ていただくと。そういった段階での宿泊費用の一部を補助させていただくものでございませう。

2段目が今年度拡充をさせていただいたということで、航空機利用、但馬空港を利用して来られた場合と、その片道の航空運賃、回数は4回までとしておりますが、上限が、補助をさせていただいております。

一番下の下段の金額の大きいところは、従前から持っております、飛んでるローカルというサイトに載っております物件に移住、売買または賃貸で入られる場合、その建物を改装するというふうなところにつきまして、補助率を4分の3、上限100万円ということでご補助をさせていただいております。この補

助の100万円につきましても、2020年度から市内全域で100万円、以前、前年度までは過疎地域は100万円ですけれども、過疎じゃないところはちょっと金額、落としてというときもありましたが、全部広げさせていただいてということでございます。

めくっていただきますと、4ページでございます。

(3) 移住への各ステージに応じた支援の拡充ということで、本議会にも補正予算を提案をさせていただいておりますけれども、問合せが多い、実際に田舎への興味を持った方が増えつつあるというふうな状況を好機と捉えて、少しでも多くの方に豊岡市を選んでいただいているという段階の中で、それぞれ支援の枠を広げさせていただきたいなど。

上段のAにつきましては、検討段階での支援、実際こっちに見に来ていただくということの中でレンタカーの借り上げの補助、それから2つ目のちょぼは、高速料金を、一定額を補助をさせていただきたいということでございます。

Iです。今度は移住初期の費用支援ということで、引っ越しが当然必要になってくるわけなんですけれども、この引っ越しの費用を上限20万円で見させていただきたい。引っ越しの物件につきましても、民間の物件も対象ということで拡充をさせていただきたいというふうに考えています。

Uです。次は移住後の生活支援ということで、運転免許の取得、1世帯について1人だけということになりますけれども、こちらの生活で必要となるであろう普通免許を、豊岡自動車教習所で取っていただいた際の費用を見るということでございます。2つ目のちょぼは、インターネット環境ということで、入られた住宅等に環境がない場合の整備費の一部を補助をするというふうなことでございます。

一番下のEですけれども、これは新たに設けたものですが、賃貸用物件の掘り起こしということになりますけれども、借りたいとおっしゃる中でやっぱり移住される方の傾向として、借りたい物件というのは、特に若い世代の方には初期投資を抑えたいというふうなところから、借りたい物件が結構、

希望があるんですけど、なかなか今度、飛んでるローカルには貸してもいいよというのがなかなか増えてこないという部分がございますので、その原因の一つに考えられるのが、持ち主の方がちょっといろんな荷物がまだ残ってるしというような部分があって、やっぱり出すのはなというのがあるというふうなこともお聞きをしましたので、100%ではないかもしれませんが、事前に清掃をしていただいて、その代わりローカルに出していただいて、借りていただけるようなものを促進をしたいというふうに考えております。

続きまして、5ページはもう1本の柱といいますか、地域おこし協力隊の状況でございます。(1)の表は10月の募集状況です。17の募集に対して56名が応募をされてということで20名を多少前後はすると思いますけれども、受入れ団体とも調整をしながら、採用を進めさせていただきたいというふうに考えております。以前でしたら1名に対して1名という分が結構多くはございましたけど、今、複数名応募をされてくるっていうのがありますので、審査といいますか、させていただいて、よりよい人材を来ていただけるようにということで、審査をするのがなかなか難しいわけではございますけど、そういった状況が出ていると。

中段の(2)には、現在の隊員数でございます。22名ということで、内訳はご覧いただきたいと思っております。

一番下段の(3)番は、1月の委嘱に向けたということで、新年度すぐに活動ができますようにというふうな意味合いも込めまして、例えば植村直己冒険館を拠点としたというようなところも含め、募集をさせていただきたいというふうに考えております。

ページめくっていただきました6ページです。その他、移住定住関連情報といたしまして、(1)番はオンラインによる転職者向け会社説明会ということで、今までは新卒だとか新規ということで企業説明会等はしておりますけれども、今回初めて転職っていいですか、今まで移住だとか転職っていいこと

に焦点を当てた説明会をしておりませんでしたので、一度やってみようということで準備を進めさせていただいております。開催日時は、9月27、10月25、11月29ということで、今現在は9月27日の準備ということで、業者様といたしましては12社ほどご参画をしたいということでございます。聞きたい側については、今日現在はまだ2名が5社について聞きたいというふうな情報を得ておりますが、ぎりぎりまでまた増えたいというふうに思ってます。

(2) 番は、エコハウスの活用についてということで、これも新しい生活スタイルの一つになるかと思えますか、テレワークの可能性の検証ということで、エコハウスを使用実験をさせていただいてます。下段に書いておりますように、申込みで使わせていただいて、この環境といたしますか、どんな感じでしょう、豊岡でそういった生活、今後もやっていけるでしょうか。いろんなことも含めてモニターになっていただき、テレワークを拡大していくための一つの資料というふうなことでさせていただきたいというふうに考えております。

説明は以上でございます。

○委員長（嶋崎 宏之） ありがとうございます。

以上で説明は終わりました。

質疑はありませんか。

○委員（福田 嗣久） ちょっとよろしいか。

○委員長（嶋崎 宏之） じゃあ、福田委員。

○委員（福田 嗣久） 一番最初この分ですけども、この第1期創生総合戦略の総括なんですけど、これは何年から何年でしたっけな。

○委員長（嶋崎 宏之） 井上課長。

○政策調整課長（井上 靖彦） これは2015年度から2019年度です。

○委員（福田 嗣久） それで、一番冒頭、説明もさせていただいた総括ということで、人口統計を確認できる成果は認められないということ。今やっておられる国調ね、この辺りの確認がいるんでしょうけれども、どこだったかな、第1期ですぐさま人口統計で確認できる成果が出ないことは想定織り込み済

みという説明をされて、腰を据えた持続的まちづくりがぶれる、途絶えることはよくない。これもよく分かるんですけども、私的に申し上げると、もう地域が劣化したのが非常に感じるんです。だから、全体でのこともよく理解はするんですけども、私的に相談を受けることがもう家じまいのことばかり受けるもんですから、すぐさま結果が出ないっていうことは理解はするんですけども、ある程度、地域柄で、さっき、これも冒頭言われました但東、竹野100年間、人口増えたことがない。確かにそう、それは私もよく知ってるんだけど、ここへきて急激なんでね、長いお経を読んどられん面も実はあるんです。

そうして考えると、市内全域のことをおっしゃるのはよく分かるんで、それは市内のこういったところ、こういったところ、こういったところということはもちろん理解しながら聞くんですけども、本当の家じまいのことを考えていけば、家じまいが広がってくる、地域じまいになってくるんですよ。ほんで特に但東でいったら、井上さんのところや私とこね、非常に厳しい状況があるんで、そこらの濃淡というか、その辺をつけて、第1期がこれ総括するんですけど、第2期に向かっていっては、それをやっていると、地域じまいがほんまに目の前に来てるなという気がして、個別の相談事はできるだけ対応するんですけども、個別のことじゃなくて、地域じまいのことが本当にテーマとして上がってくるんじゃないかなという気がしているんです。だから、それを市として人口減少、少子化、全体を考えるのはもちろんそうなんだけども、地域を見たとき、もっと細分化していったら、それは振興局との関連もあるんですけども、その辺まで考えていって、手を差し伸べるいったらおかしいけれども、ちょっと考えていかなと手後れになる地域が出ますよということは非常に私感じますんで、その辺の感覚はどういうふうに捉えられますか。

○委員長（嶋崎 宏之） 井上課長。

○政策調整課長（井上 靖彦） 以前の委員会でもお示しましたように、地域ごとの人口減少、やはり委

員おっしゃるようにいろいろ特徴があって、やはり但東辺りはずっと下がってきている状況でございます。ただ、なかなか今の地方創生が豊岡市全体で人口を緩和していこうということに重きを置いておりますので、今、地域のことについては今のところ、それぞれの振興局で頑張らせていただいているような状況かなというふうに思っております。

もう一つ、さっきの地域じまいという話もありましたけれども、コミュニティができたっていうところも、その辺りを意識してやっているところだと思いますので、なかなかそれぞれの区ごとで力が出せないところは、コミュニティ全体で活力をつけていただいて、そこに魅力を感じて、さっきの協力隊ですとか移住希望の人が入り込んで、みんなでより活力を高めていくというようなことになるんじゃないかなというふうに思っております。以上です。

○委員（福田 嗣久） ありがとうございます。その辺は理解はしておりますし、難しい課題ですけども、コミュニティとか振興局ということだけに投げる話じゃないところもあるんでね。本当に大変な課題だと思うんですけども、その辺は私自身、本当に切々と感じるころがありますんでね、こうして頭だけ下げて、もうやめときますわ。

○委員長（嶋崎 宏之） ほかにございませんか。
じゃ、浅田委員。

○委員（浅田 徹） 私も地方創生の関係、地方創生のことについて1点だけお尋ねしたいと思います。

まあまあ、戦略の統括ということでもありますけども、一応私、気になることは、やはり専門職大学がコロナで実際ちょっと認可の時期が遅れてというのが、10月には下りそうだと。でも、8月の中旬に文科省からも現地視察来られて、非常に感触のいいコメントもいただいてということの中で、いよいよ募集のほうは別としまして、やっぱり開学するとすれば、80人が全寮ということになります。4年たてば320人、こういう若者が中心市街地に、言わば定住より関連で住むということになりますね。そういうことの中で、中心市街地の中のいろんな

まちづくりの31年度版出ました。そういうことの中で、そういう若者の活力、にぎわいと潤いというようなことでまちづくりでは言っとるんですけどね。こういうことにリンクして、やはりそういうものいかに呼び込むんじゃないかと来るわけですから、それがいかに定住に結びつくか、さらにはその若者たちにどういうふうに戦略として、まちづくりにそういう若いエネルギーを生かしていくか、そういうところがちょっとこの中では読み取れないなど。ですから、すぐにも、ここ来年の話ですから、やはりそれを先取りするぐらいの意欲のあるものにされたら、どうでしょうかという強い思いがありますけども、どうでしょうか。

○委員長（嶋崎 宏之） 井上課長。

○政策調整課長（井上 靖彦） 第1期の中には、なかなか明確にそれが位置づいておりませんでした。ただ、第2期のほうには、新たな視点ということで、専門職大学との連携というものを強く入れております。この戦略会議の委員の中に平田オリザさんもいらっちゃって、特にやはり数だけでなく、外国の外国語ができる方もたくさん入ってくる、そういった方が地域にいい影響、あるいはさっき言いました外国人がたくさんこれから豊岡市にも入ってきているところでききますと、その辺りが大学との連携あるいは学生との連携になっていくのかなというふうに思っております。

○委員長（嶋崎 宏之） 浅田委員。

○委員（浅田 徹） 関連してです。今、平田オリザさんの話が出ました。ただ、このコロナ禍というふうなことで、非常にこれが出てくる。今までみたいなインバウンドでも非常に爆発的に、言わば演劇祭も国際が取れて、やはりまだ一般のそういう行き来は非常にできない、できにくい。そういうことも踏まえて、やはり一番この専門職大学もそうですし、外国人がたくさん来るのは、これは就労のほうで、言わば農業、漁業、まあまあ、そういう若者も見たら多いというふうなことの中で、そういうものも少し、やっぱり意識して書いていかないと、今までみたいな、総花的に、言わば演劇祭からなかなか国際

の冠が使えられないような状況下もあるし、その辺のこともやっぱり今、実際起きている現状も含めて、見直しとは言いませんけど、それも若干やっぱり意識しながら、まとめていただきたいなというのが思いますが、どうですか。

○委員長（嶋崎 宏之） 井上課長。

○政策調整課長（井上 靖彦） まさにその辺は80人ずつ増えていきますし、非常にいい効果が期待できると思っていますので、また大学や担当課のほうとも連携して、どんなことができるのかっていうのを早め早めに検討できたらというふうに思います。以上です。

○委員（浅田 徹） ありがとうございます。
もう1点。

○委員長（嶋崎 宏之） 浅田委員。

○委員（浅田 徹） これは、ジェンダーギャップでずっと気になってる課題です。特に市役所といいますか、この行政を一つの、まあまあ、モデルというようなことになるわけですが、ここにありますように、9月23日にジェンダーギャップが解消された場合のシナリオと解消されなかった場合のシナリオを検討すると。これがどの、どれがされて、どれがされなかったのか、やはり一つのそういうものを、シナリオをつくるわけですから、どれが分岐点になるのかというふうなね、非常に難しいものの中で、それでもって目指す姿をっていうふうなことがあるわけです。

それと、今度、地域にも目を向けていこうというふうなことの中で、ご承知のように、地域のウーマンパワーじゃないんですけど、今年聞いています情報によりますと、女性交流会が解散をされると。これは昔々、昭和25年に、婦人会という全ての地区に組織といいますか、そういう流れっていうんか、地域の流れ、なかなか若い人たちが組織で活動する、組織立っての活動といいますか、それと一応流れとしては、そういう権利とか生活とかいう分では一応成果を上げての、僕は解散かなという思いをしとるわけですが、ただ、今、地域で活躍いったら、いろんな例えば福祉の見守りから、いろんなサロン

とか、そのほとんどが私の知ってる限りでは、もう女性に頼らざるを得ないという、大活躍なんですね。そういうところ辺の、言わば何がその地域も含めてというふうなことが、働く云々とこまでいってましますけども、やっぱり社会全体をいかに女性が支えていくか、活躍しているか、どの辺までの中での一つ一つの分岐点といいますか、非常に僕は難しい課題をあえて何かチャレンジされるかと思いがあって、それについては、どういうふうにお考えで進められていくのか、お尋ねしてみたいと思います。

○委員長（嶋崎 宏之） 上田次長。

○総務部次長（上田 篤） 今の浅田委員のご質問に対してですが、まず第1回の会議でのこのシナリオ、解消された場合、されなかった場合っていうのは、これはシナリオプランニングっていうワークショップの今、一つの手法として、解消された場合、どういう状況になるのか、逆にジェンダーギャップが解消されない場合、どういう状況になるかっていうものを、それぞれこういうポストイットで委員の皆さんにずっと書いていただいた。それで、まず、イメージをずっとしていただくということからスタートしまして、実際、解消された場合にどういう状況になっていくのかを、戦略案、目指す将来像とか等とどういうふうにリンクしていくかっていうのは、ずっとそれぞれのご意見でまた集約していつて、当然、集約する前に、今年2月に実施しました20代とか高校生の若者の意見も、そのワークショップをする前に十分ご説明して、若者はどういうふう考えてるのか。このジェンダーギャップの解消戦略っていうのも、当然やっぱり今の高校生とか20代っていうのが20代、30代になるときに向けての戦略でもありますんで、まず、そこをきっちり理解した上で、された場合、されなかった場合っていうのを、それぞれの委員さんにちょっと想像してもらおうということからスタートしていきます。これ実際、各議員さんには開催についてご案内してまして、既に傍聴したいというお申し込みもいただいているんですけど、これ、どういうんですか、言葉で説明すると、なかなか説明しづらいんですけど、ぜひ、

もしお時間ありましたら、戦略会議でちょっとご確認いただけたらと思います。（発言する者あり）

それと、あと、さっき女性交流会が解散されたということ、本当、今までいろんな男女共同参画とかの中で、まちづくり中で、きちんと実績を積み上げてきていただいて本当に感謝してます。でも、どうしても高齢化というのがあって、今回そういう結局、廃止、解散されることになったと思うんですけど、やっぱり時代の趨勢っていうのがどうしてもあって、今の、がちがちのお付き合いとかネットワークから緩やかなネットワーク、例えばSNSとかを活用した緩やかなネットワーク等に移行していくという中で、今後やっぱりそういうことも十分踏まえながら、その次の世代っていうんですか、若い世代のことも考えながら、そういう今度、女性交流会が解散された後の、どういうふうに展開していくのか、市民の皆さんにどういうふうに参加していただいたのかっていうのは、この戦略会議の中で委員さんのご意見もいただきながら、それは検討していきたいなと思います。

○委員長（嶋崎 宏之） 浅田委員。

○委員（浅田 徹） 悪いですが、本当に言葉遊びにならないように、しっかりと市民のための生活、やっぱり現場、実際に根差した、それもしっかり酌み上げて、プランニングだけにならないように、これはひとつよろしくお願いします。以上です。

○委員長（嶋崎 宏之） ここで暫時休憩をいたします。（「そう」と呼ぶ者あり）はい、再開は10時40分。

午前10時33分休憩

午前10時39分再開

○委員長（嶋崎 宏之） それでは、まだ時間より1分早いですけども、休憩を解きまして、会議を再開いたします。

皆さん、質疑の継続ですけれども、何かございませんか。

村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 移住定住のことでちょっとお

尋ねをしたいんですが、移住希望者が非常に多くて、大変ありがたい話だなというふうに思うんですが、ただ気になるのが、これ建設経済委員会でもちょっと問題になったことがあるんですが、移住者のどこに移住するかということによって、その移住先の地域の慣習というんかね、もっと、じゃあ、簡単に言ったら日役とか、こんなの慣習ありますね。このことをしっかりやっばり移住前にお伝えをしないと、聞きたいのが、移住はしたけども、こんなはずじゃなかったと、思いが違うわいって再移住してしまったような事例はないのかと。もしあったら、その辺をしっかりと調査をして、どういうんかね、移住者の負のイメージにならないように、しっかりそこから学ぶことが大事だと思うんで、その辺の追跡があるのかっていうことをお聞きをしたいなと思うんです。

ていうのは、具体的な例として、県立の大学院の生徒を栄町の市営住宅に特別な扱いで、特別な扱いいたら叱られるけども、入居されてますね。それ住宅の居住者の人から、彼らは自治会にも参加しないと、そんなことでええんかいと、住んだら自治会に参加をしてというのは、皆さんの、入居者の条件っておかしいけど、そんななっとるのに、この大学院の生徒はその辺が全部免除みたいやと。これは住宅の問題ではあるんですが、そういう住んだ先でその住民としてやっぱりなじんでいかないと定住っていうのできないと思うんでね、あえてそういう事例はないのかっていうことと、もしあったら、そこから何を学んだのかという辺りも含めて、移住定住をさらに前に進めるためにもちょっとお聞きをしておきたいです。

○委員長（嶋崎 宏之） 午菴課長。

○環境経済課長（午菴 晴喜） 今、議員がおっしゃったことは大事なことで理解しております。例として挙げられました大学院生の件については、ちょっと承知をしております。類似のものがあるかについても、詳細な事例がありますいうとこまでは把握はしてませんが、当然、双方、来られる方もそうですし、受け入れる側もそうだと思います。

ただ単に移住して来られて、全部、地域のことをしてもらうために来てもらったんだというスタンスではなくて、お互いが譲り合うところは譲り合いながら、よい関係を持ちながらしていただければと当然思っておりますので、そういったものための事前の情報だとかっていうのは可能な限りお伝えするようなことで、努めてまいりたいと思います。ただ、民間で直接来られるっていうようなところまでは、ちょっとなかなか難しい部分もあるかと思えますけれども、行政が通った部分については少なくともそういったことで対応ができるようにしていきたいと思えます。

○委員長（嶋崎 宏之） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 再移住の話聞いてない。

○委員長（嶋崎 宏之） 午菴課長。

○環境経済課長（午菴 晴喜） 私個人としてはちょっと聞いてないですけど。（「あるだろうな」と呼ぶ者あり）

○委員（村岡 峰男） あるだろうけども、お聞きになってなけりゃ、そりゃあ、しょうがないんで、はいはい、それだけ。

○委員長（嶋崎 宏之） ほかにございませんか。

○委員（浅田 徹） 今に関連して。

○委員長（嶋崎 宏之） 浅田委員。

○委員（浅田 徹） 村岡さんに関連してですけども、たしか移住定住、移住に関しては、現在でも、もう私の地区でも180棟ぐらいなアパートがあるんですね。その3分の1ぐらいは管理会社のほうから、入居されてもプライバシーなので、名簿も一切何も出しませんと。ほんで、ここに区費はもうちゃんと払いますけども、名簿だけは、これはそういう契約で入っていただきますということあるんですね。住民票等は、入ってくる人もありますし、見てたら、やっぱり市外からの若いご夫婦が新しくできた、本当にきれいなマンションに来られる。それが長いことおられるかどうか、いろいろとケースはあるんですけども、その辺の、言わば特に賃貸の関係ですね。新築、持家はやはり今なじんでいただきやすいし、それは中古でもそうです。そこで居を、

住む。ところが、賃貸の場合で来られた方については、一応にその辺が、今の住宅というんか、賃貸の管理会社といますんか、そういう仕組みで一切、もちろんですから、誰が住んでいるか分からない。区の活動も事業も一切、もう全く関わりがないということを入条件に入ってくる場合があるんで、その辺のところ、どういうふうこれから考えていかれるのかなというふうなところについてお願いしたいと思います。（「難しいな」「難しいわな」と呼ぶ者あり）

○委員長（嶋崎 宏之） じゃあ、坂本部長。

○環境経済部長（坂本 成彦） 本当おっしゃるようなことは我が地区でも起きてまして、同じような問題をどこも抱えているんだろうと思います。ただ、受け入れる側といますか、その許容力というのか、そこもすごくこれから重要になってくるのかなというふうに思ってます、豊岡を目標に、この場所が気に入ったって言って来られる方は、意気揚々と来られるので、やっぱりその人たちを最初、しばらくの段階、しっかり見守ってあげるみたいな、そういう地域の包容力もこれからはすごく必要になるんだろうなと思います。最初、政策調整のほうからありましたけども、外国人の方なんか同じようなことだろうと思ってます、どうして仲間として導いてあげるかっていうことも、受け入れる側も試されているという今、状況だと思いますので、村岡議員もおっしゃったように、情報をしっかり与えるとか、そういったことはきちんと進めながら、受ける側もしっかり受け入れる体制を取っていくっていう、そういう両方が必要なのかなということを強く感じてます。

○委員長（嶋崎 宏之） ほかに。

○委員（福田 嗣久） もう一つだけよろしいか。

○委員長（嶋崎 宏之） じゃあ、福田委員。

○委員（福田 嗣久） 経済部のほうに、移住定住の相談件数も増えて、その上でいろんな施策が打ち出されておまして、大変結構なことだと思ってるんですけども、もう一つの視点で、この1月、2月からコロナが発生して広がってくる中で、僕、半年

したら倒産が増えるということは想定してたんですけど、そういう状況が出てきつつあるなと思って、そういう状況で、それともう一つ大事な視点が、廃業が増えると思うんですわ、間違いなく。これ、前も申し上げたと思うんですけど、その廃業が増えることを少し何だ、転職防止だなんておっしゃいましたけども、その辺も経済課だけでは無理でしょうけども、商工団体あたりと一緒に、廃業の受皿としての転職ということを大事にしていかんと、地域の劣化が始まりますんで、その辺の視点が必要だなと思って聞いてましたんですけど、ちょっとだけお答えいただいたら。

○委員長（嶋崎 宏之） 坂本部長。

○環境経済部長（坂本 成彦） おっしゃるとおり、すごく重要な視点だろうと思ってまして、まだそこまでできてないというのも実情ではあります。この前の新聞でも、ちょっとご覧になったかは分かりませんが、民間の方で、移住者の方と地域の承継できるような事業を結びつけるっていうマッチングを、職業紹介というきちんとした手段として立ち上げた方が出てまいりました。大開通りで事務所を構えて、そういうことを取り組んでいかれるっていうことがあるので、ここは本当むしろ連携してやったほうがええなというふうに思ってまして、我々の移住施策と、それから商工団体のそういう廃業につながりそうなところみたいところをマッチング、うまくお互い情報共有できたら面白いことになるなという事は思っております。そういう動きがちょっと出てきているということは、ご承知おきください。

○委員長（嶋崎 宏之） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 倒産は半年、1年でかなり強烈に来ますけれども、廃業はやっぱりその後につながってきますんで、廃業してしまうと、もうその産業は立ち上がらないっちゃうことなるし、かばんがかなり多い、この豊岡市街地、多いんだけども、それにしてもどこ行くか分かりませんので、仕事として、やっぱりそういうことを拾うと、肝腎の場は、なかなか市だけでは難しいと思いますけどね。だけ

ども、その力がなかったら、地域の劣化が、この経済的なダメージがやっぱり地域に広がっていきますので、ぜひ力を入れていただきたいと思っておりますので、これ、よろしく。

○委員長（嶋崎 宏之） ほかにございませんか。

清水委員。

○委員（清水 寛） すみません、直接、移住定住に関わるのかどうかとなるとちょっと微妙なんですけども、先日、市のホームページで、地域や行政課題の解決に向けた実証実験ということで、アーバンイノベーション豊岡というのが募集しているということがあったんですけども、その点にちょっと、あまり聞き慣れない事業がぽんとホームページ出てきたんで、何かちょっとご説明いただけたらなと思うんですけども。

○委員長（嶋崎 宏之） 坂本部長、どうぞ。

○環境経済部長（坂本 成彦） 今、こういう動きがすごく活発に出てきてるんですけど、地域課題をこちらが提示をして、企業の側がそれはいと手を挙げて、解決の糸口を見つけてくれて、それが全国共通課題として一つ、要は立ち上げるのにはイニシャルコスト要りますけど、全国にそのシステムが売れていくと、企業としてももうかっていくみたいなことで、地域課題解決を企業と結びついてやるという、そういう取組が各地で広がってます。今回、Urban Innovation KOBEさんが、国の補助メニューを使ってやる地域の一つとして豊岡を選んでくれて、タグを組んでやりましょうということが始まったという状況です。

さっきの移住の話とも絡むんですけど、これまでIT企業誘致みたいなことを積極的に進めてきてまして、それはなぜかということ、若い人たちや女性の働き場所がこんな事務所を建てなくてもすぐ展開できるっていうふうなことがあって、若者、女性の定住ということも含めて、IT企業に狙いを定めてきたんですけど、今回コロナ禍で、もうIT企業に限らず、地方でも働けるじゃないかという、そういうテレワークやサテライトオフィスの動きが急速に高まってきてますので、ちょっとその辺は意

識をして全方位にちょっと網を張って、いろんな企業が豊岡のほうを向いてくれるんなら、積極的につかまえていくみたいなことをやっていこうと思っています。その一つにその動きも含まれてるというふうに思っていたらと思いますが。

○委員長（嶋崎 宏之） 清水委員。

○委員（清水 寛） 今まで市の中、恐らく地域おこし協力隊の方がこの地域の中の課題解決にということだったと思うんですけども、逆にこういう大手の企業であったり、その方たちと、今はここでは豊岡市ということなんで、市の職員がうまく協働してそういうのを考えていくという、始まったばかりというよりは、まだスタート地点に着くための準備段階っていうことであると思うんですけども、とってもいいことだと僕は思ってるんです。昨年、福岡市に行ったときに同じような取組をされてたんですけども、そういう意味でも、多分、今は全国的にこれを始めてるところだと思います。職員と企業なんですけども、やはり職員の先には、地域課題を持ってるその地域が必ずあると思いますので、その辺ともきっちりとうまく連携をするように、今後その辺も考えていただきながら進めていただければ、逆に言えば、その地域の問題を関わってくれるその企業の方も気に入って、いわゆるサードプレイスというような形で入ってくれるのかなと思いますし、その辺で地域の情報であったり、そういうのもプレゼンしながら、しっかり進めていただけたらと思います。以上です。

○委員長（嶋崎 宏之） ほかにございませんか。

足田副委員長。

○委員（足田 仁司） まとめて3点ほどお尋ねします。

その前に、ジェンダーギャップの取組で職場という切り口に加えて、家庭、地域等を含めた戦略策定が今年度予定、計画されてるということで、非常にいいことだと思いますので、しっかり進めていただきたいなと思います。

その関連でキャリアデザインの取組なんですけど、いろいろ職員に対してアプローチされてるよう

ですけども、いろんな取組の場に人事課は関わっているのか、また関わるとしたらどんな形でっていうのを教えていただきたい。

それから、次が公共施設マネジメントの事業の関係ですけど、非常に特殊な業務なんですかね、すごい高額な入札、入札といますか、契約額になっております。予算額のかなり入札で言えば、入札率といますか、高いように思いますけども、これは実際、入札で決められたのか、それとも特殊な業務なのか、今、どの辺りがどう特殊なのか、ちょっと業務の内容も概要が分かれば教えていただきたいです。

それと、あと1点、これはどこだったかいな、政策調整課のこれはパワーポイントですかね、5ページ、大きな2で豊岡市の創生戦略と人口動態の注目点のこの棒グラフ、折れ線グラフの下の説明欄に有配偶出生率とあるんですけど、この意味と、それと、これの逆の意味の無配偶出生率っていうのがあるのか。あるとしたら、このデータにそれが組み込まれていない理由があれば教えてください。

3点、お願いします。

○委員長（嶋崎 宏之） 岸本参事。

○ワークイノベーション推進室参事（岸本 京子） 人事課との関係性ということでお尋ねをいただいたんですが、幸運なことに背中合わせで人事課と職場を同一にしておりまして、当然、人の管理は人事課がしております。常に情報共有と研修を実施するに当たっても説明といたしまししょうか、こういうものをするというふうなスケジュールも含めて常に共有をさせていただいて、あわせて、人事課の研修とかぶらないような形で、年間の中で調整をさせていただいてるというような状況ですので、別々に違った方向に走ってるというふうなことではないというふうに認識しております。以上です。

○委員長（嶋崎 宏之） よろしいか、続けて、説明していただいて。

じゃあ、次は、土生田室長。

○公共施設マネジメント推進室長（土生田 哉） 今回の契約につきましては、プロポーザルで行ってお

ります。予算上限を示しまして、その上でということで、通常の前定価格を定めた入札行為ではございません。ですから、ほとんどの業務が人件費側、今も現在、先ほど申し上げましたように、施設のほうの老朽度調査のほうに2人1チームで、それぞれ2チーム程度が入りまして、それぞれの施設を1時間ないしは2時間見て回るということで、それらと後の取りまとめ、個別施設計画の取りまとめということで、それらでございますので、業務自体が特殊なものというふうな考え方をしております。以上でございます。

- 委員長（嶋崎 宏之） 続いて、じゃあ、井上課長。
- 政策調整課長（井上 靖彦） 有配偶出生率、市内で結婚している女性がどれくらい平均的に子供を産んでいるか、結婚した方がどれだけ産んでるかという率でございます。無配偶出生率、要は結婚せずに子供を産まれるっていう方については、ちょっと私の中では、そういう言葉は聞いたことないなというふうに思っております。データとしても今、持ち合わせてはおりません。よろしいでしょうか。
- 委員長（嶋崎 宏之） 足田委員。
- 委員（足田 仁司） 政策調整課長にお尋ねします。配偶者のいない、いわゆるシングルマザーも存在してると思うんですけど、その方たちは数に入っていないっていうのが、それでいいのかわかっても含めてちょっと説明をお願いします。
- 委員長（嶋崎 宏之） 井上課長。
- 政策調整課長（井上 靖彦） 国勢調査等の統計でとっておりますので、今、有配偶の出生率という形でやっております。なので、今は入っていない状況でございます。シングルマザーの方で産まれた方っていうのがあるのかどうかっていうのは、また調べておこうとは思いますが、今は入っていない状況でございます。
- 委員長（嶋崎 宏之） よろしいですね。ほかにございませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
- 委員長（嶋崎 宏之） ほかにないようですので、それでは、以上で所管事項の説明については終わり

たいと思います。

この際、当局から何か発言がありませんか。せっかく来ていただいたんで、発言なかったら塚本部長に正木部参事、一言。

久保川部長。

- 健康福祉部長（久保川伸幸） ありません。
- 委員長（嶋崎 宏之） 成田部長。
- 総務部長（成田 寿道） 特にありません。
- 委員長（嶋崎 宏之） ありがとうございます。それでは、ないようですので、当局の職員の方は退席をさせていただいて結構です。お疲れさまでした。
〔当局職員退席〕
- 委員長（嶋崎 宏之） それでは、引き続き委員会を継続します。次に、（2）委員会の運営方針についてを議題といたします。委員会重点調査事項を2ページに添付しております。特にご意見がなければ、前回と同様でいきたいと思っておりますけれども、ご意見はありませんか。（「なし」「なしになるわ」「非常によくまとめていただいておりますと私は思います」と呼ぶ者あり）
- 委員長（嶋崎 宏之） ご異議がないようですので、そのように決定いたしました。次に、（3）委員会調査中間報告書（案）についてを議題といたします。過日、委員会調査中間報告書（案）を送らせていただき、一度、皆さんにはお目通しいただいていることと思っておりますけれども、修正等ありましたらお願いをいたします。村岡委員。
- 委員（村岡 峰男） 赤字やら青で線が入ってるのがありますけど、データで、それは委員会の意見があつて、こういうふうにするという意味合いですか。
- 委員長（嶋崎 宏之） 事務局、小林主幹。
- 事務局主幹（小林 昌弘） 中間報告書の案の赤字と青字のことですけれども、先に委員さんのほうに送らせていただいた分、当局のほうに一度目を通していただいて、当局側としてこういうことで修正

をしたほうがいいんじゃないでしょうかということ
とで、青字がもともとの分、赤字が修正案というこ
とで……（「当局案」と呼ぶ者あり）はい、つけて
おります。ご協議をお願いします。

○委員長（嶋崎 宏之） ということです。（「委員
長、違っとったです」と呼ぶ者あり）よろしい。

○委員（浅田 徹） 問題ないと思いますね。日付
の訂正なんかもあれか、今……。

○委員長（嶋崎 宏之） 浅田委員。

○委員（浅田 徹） 議員と、やはり当局とのがち
んこで、やっぱり精査した中で見て私はもうこれで
いいのかなど。特別、逸脱するものはありませんし、
日にちの修正等は当然これもうきっちりの確に、特
に数字に関わる、そういう意見です、私は。

○委員長（嶋崎 宏之） 分かりました。確かに僕も
前段で言いましたし、ここにも書いてありますけど、
あんまり今年ほどの委員会もそうだと思いますけ
れども、コロナのためになかなか思うとおり進捗が
できなかったことが非常に残念なことであります
けれども、これも致し方ないと思います。

それでは、この当局からの修正が入りましたけれ
ども、当委員会の中間報告書として提出することに
ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（嶋崎 宏之） ないようですので、それ
では、そのようにさせていただきますので、よろしく
お願いをいたします。

なお、この委員会調査中間報告書については、今
期定例会閉会日に議場配付する予定となっております
ので、ご承知おきください。

それでは、（４）番、その他についてを議題とし
ます。

特に議題は設けておりませんが、何か皆さんの
ほうから発言はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（嶋崎 宏之） ないようですので、それ
では、以上をもちまして委員会を閉会いたします。お
疲れさまでした。

午前 11 時 6 分閉会